

2020年度事業報告

2020年度は、新型コロナウイルス（COVID-19）で始まり、アベノマスクや緊急事態宣言の発令、首相交代、アメリカ大統領の「中国ウイルス発言」と大統領交代、ウイルスワクチンの開発と接種など、その感染拡大と対応に終始した年と言える。

この新型コロナウイルス感染拡大によって、私たちの医療現場は、混乱をきたした1年であった。特に私たち医療ソーシャルワーカーは、入退院、転院の対応の難しさや患者、家族の思いを支援することの難しさを感じながら業務を遂行しなくてはならない状態となり、会員の中には、メンタル面でのフォローが必要になった者もいた。協会としては、このような現状を把握するべく3回のアンケート調査を実施し、それに基づいて、小池東京都知事への要望を提出した。

また、新型コロナウイルスの感染拡大に伴って、東京都からの委託事業にも影響が出て、各地で開催してきた「地域巡回医療福祉相談会」の開催中止や新人研修、グループスーパービジョンのオンラインでの開催への移行が求められた。

このほかにも、協会の事業活動の中心をなすブロック活動の縮小や社会問題対策部の都民向け公開講座の中止、小委員会活動の縮小を余儀なくされ、理事会についてもZOOMを使ったオンライン会議の開催によって、各種の活動を検討していった。

ただ、新型コロナウイルス感染拡大はマイナスのことばかりではなかった。従来から行っている東京都の委託事業である電話相談の「医療と暮らしのほっとライン」も多くの会員の協力を得て、3月まで毎月4回定期開催を実施でき、「ホスピス・緩和ケアにかかわるMSWの集い」委員会は、「MSWのための視点マップ作り」を行い、協会のホームページに掲載した。

2019年度から設置した「名称変更検討委員会」は、会員へのアンケートや意見募集、新しい名称募集などを行い、2021年5月の定期総会へ提案する新しい名称「東京都医療ソーシャルワーカー協会」を決定した。

その他、事業計画に基づき、以下の事業を実施した。

1. 一般社団法人として求められている要件整備に努めた。
2. 事業に関する会員の理解を深め、会員が主体的にかかわり、積極的に参加できるよう努めた。
3. 医療福祉関係の他団体との連携を深め、公益事業と社会活動を推進した。
4. 東京都及び都議会各派へ、医療福祉の向上のため要望書を提出した。
5. 協会活動の情報提供や会員の意見交流の場として、出版活動及びホームページの充実に努めた。
6. オンラインでの講座・研修会を開催し、会員の専門性の向上に努めた。
7. 医療福祉相談事業の充実に努めた。
8. 医療福祉問題研究委員会活動の充実に努めた。

I. 管理運営報告

1. 公益法人の要件整備に努めた。
 - (1) 公益法人の最高意思決定機関である社員総会への出席会員の増員に努めた。
 - (2) 協会事務所の事務局体制を週5日稼働し、会計処理をはじめとした各部理事体制における事務処理の流れを事務局にて処理した。
 - (3) 会計業務を効率的に行うためにインターネットバンキングの導入を決めた。
 - (4) 公益法人の原資である会費については、各ブロックの世話人と理事の協力で未納会員の納入促進を図り、財源確保に努めた
2. 公益性の高い公益（自主）事業の継続に努めた。
 - (1) 都民に対しての公開講座の開催を予定したが新型コロナウイルスの影響で中止した。
 - (2) 江戸川区医療福祉相談会の開催を予定したが新型コロナウイルスの影響で中止した。
 - (3) 西東京市医療福祉相談会の開催を予定したが新型コロナウイルスの影響で中止した。
 - (4) 葛飾区医療福祉相談会の開催を予定したが新型コロナウイルスの影響で中止した。
 - (5) 江戸川区神経難病検診を東京都委託事業（地域巡回医療福祉相談会）として実施した。
 - (6) 豊島区医療福祉相談会の開催を予定したが新型コロナウイルスの影響で中止した。
 - (7) 医療関連12団体で構成する医療従事者ネットワーク連絡会を中心とした看護フェスタに、オンラインにて参加した。
3. 医療福祉向上のため都知事及び都議会各政党・会派に対し要望書を提出した。
4. 他団体との連携を図り社会活動の推進に努めた。
5. ロック代表世話人会と地域巡回医療福祉相談活動企画運営委員会を定期開催し、各ブロックの活動を支援するとともに協会活動の活性化に努めた。
6. 地域包括ケアプロジェクトを通じ、東京都の地域包括ケアシステム構築に努めた。
7. 広報活動
 - (1) ホームページを活用し、広く協会活動の広報に役立てた。会員名簿の掲載を行った。
 - (2) 会員向けに「東京MSW」ニュースを発行し、内容の濃い企画、編集を行い情報提供に努めた。
8. 次の事業について東京都から受託契約し、事業が円滑に遂行されるように努めた。
 - (1) 地域巡回医療福祉相談事業
 - (2) 電話相談事業（医療と暮らしのほっとライン）
 - (3) 医療社会事業従事者講習会、新人研修特別講座
 - (4) グループスーパービジョン（2講座）
9. 求人求職について「ホームページ」に随時情報を掲載した。

- 10. 会員の入退会状況を速やかに把握するように努め、ブロック代表世話人会を通じブロックに情報を提供した。
- 11. 病気や出産等によりやむなく退会する会員を救済するため、休会規定を整備した。
- 12. 相談会活動時に会員及び来談者を対象とした傷害保険に加入し、不測の事態に備えた。
- 13. 理事会、及びこれに準ずる活動時に参加者・出席者を対象とした傷害保険に加入し、不測の事態に備えた。
- 14. 診療報酬改定研修会を Q&A 方式にて実施した。
- 15. 未加入ソーシャルワーカーの入会を促進し、賛助会員要件を検討した。
- 16. 名称変更検討委員会を立ち上げアンケート・意見募集を行い方針を定めた
- 17. 会員の異動状況（2020年度）

	正会員	準会員	賛助会員	合計
入会者数	54	12	1	67
退会者数	72	9	1	82
現会員数	587	67	8	662

*2021年3月31日現在

表1. ブロック活動状況

第1ブロック		第2ブロック	
4/2	新旧世話人引継ぎ会 →予定していたがコロナの影響もあり 中止となる	8/24	世話人会
9/15	世話人会	9/17	世話人会
		10/13	世話人会
		12/2	世話人会
		1/26	世話人会
2/10	世話人会	2/18	交流会 ZOOMにて
3/31	新旧世話人引継ぎ会		
世話人・運営委員	◎小野 紋 (東大和病院) ○秋山 美優 (小平中央リハビリテーション病院) ▲並木 和美 (一橋病院) 佐藤 なみ (西東京中央総合病院) 栗田 直 (新山手病院) 菅原 美保子 (東京病院) 小高 麻里子 (東京病院)	◎山本 君枝 (相武病院) ○浅古 美絵 (東海大学八王子病院) 武井 純一 (東京医科大学 八王子医療センター) 池田 千夏 (八王子山王病院) 石川 裕加里 (康明会病院) 大栗 里沙 (立川相互病院)	

(ブロック世話人名簿 ◎印は代表世話人、▲印は相談事業運営委員、○は会計)

第3ブロック		第4ブロック	
9/3	世話人会 (ZOOM)	6/30	世話人会① (LINE オンライン会議)
10/8	世話人会 (ZOOM)	9/25	世話人会② (東京医科歯科大学医学部附属病院) ブロック通信①発行
10/22	世話人会(ZOOM)	11/12	世話人会③ (ZOOM オンライン会議)
11/12	世話人会 (ZOOM)	12/10	世話人会④ (東京医科大学病院) COVID-19に関するアンケート実施
1/7	世話人会 (ZOOM)	12/22	研修会企画を某訪問看護ステーションへ打診
1/19	オンライン交流会「コロナ禍での 困りごと、現状について」	1月	企画していた研修会が先方の都合で 中止
2/10	世話人会 (ZOOM)	2月	新たな研修会を企画中 (実施は来年度へ持ち越し) 某看護小規模多機能型居宅介護 事業所へ打診
3/18	世話人会⑤ (東京医科大学病院) ブロック通信②発行	3/18	世話人会⑤ (東京医科大学病院) ブロック通信②発行
世話人・ 運営委員	◎隈元 朋枝 (大泉生協病院) ○馬場 太郎 (順天堂大学医学部附属練馬病院) ▲博田 俊之 (竹川病院) 賀来 尚人 (健康長寿医療センター) 中土 純子 (東京福祉大学) 濱中 祐美 (さくらクリニック) 山口 友美 (田中脳神経外科病院) 山本 有紗 (ゆみのハートクリニック)	◎中田 瑞葉 (JCHO 東京山手メディカルセンター) ○安藤 梨子 (東京慈恵会大学附属病院) 猪股 陽平 (北里大学北里研究所病院) 安積 紗希 (東京医科歯科大学医学部附属病院) 荒井 恵実 (東京医科大学病院) ▲大沼 佳奈恵 (三井記念病院) ▲佐藤 美伸 (東京医科大学病院) ▲塩見 達也 (在宅総合ケアセンター元浅草) ▲岡 田尚子 (虎の門病院)	

(ブロック世話人名簿 ◎印は代表世話人、▲印は相談事業運営委員、○は会計)

第5ブロック		第6ブロック	
世話人会については随時メール、LINEにて随時意見交換をし、打ち合わせ。		7/29	世話人会
		9/29	世話人会
		12/16	世話人会
		1/23	医療福祉電話相談会
		2/9	世話人会
10/4	地域巡回医療福祉相談会 (江戸川区神経難病検診に参加 東京都委託事業)	3/8	講演会 浴風会病院・東京都認知症疾患医療センターより『センターの役割』『コロナ禍の面会制限が患者・家族に及ぼす影響とその支援』
		3/23	新世話人顔合わせ
公認心理士・日吉 円順氏(住職兼務)にコロナ禍による心理相談の事例、臨床活動等執筆を依頼し、ブロックニュースとして発行予定。「医療ソーシャルワーク」にも掲載予定)		3/末	世話人会
世話人・運営委員	◎沓澤 郁子(水野記念病院) ○加藤 大介(東京東病院) 上田 美佐江 (がん研究会有明病院) 中川 知香子 (がん研究会有明病院) 須藤 純子(京葉病院) 倉知 志帆(苑田第三病院)	◎吉元 美菜子 (杉並リハビリテーション病院) ○中島 万祐子(大田病院) ▲高鶴 亜里沙(東邦大大橋病院) ▲岩本 亜加根 (JCHO 東京蒲田医療センター) ▲正木 英恵(NTT 東日本関東病院) 進藤 僚太(浴風会病院) 鈴木 勝喜(東急病院) 岩下 力也(世田谷記念病院)	

(ブロック世話人名簿 ◎印は代表世話人、▲印は相談事業運営委員、○は会計)

第7ブロック	
7/27	世話人会
8/6	世話人会
9/23	ブロックニュース発送 アンケート実施
10/28	世話人会
12/22	世話人会
12/25	ブロックニュース発送
2/20	電話相談会
3/1	世話人会
3月中旬	ブロックニュース発送
世話人・運営委員	◎溝口 今日子 (日本医科大学多摩永山病院) ○奥野 朋子 (国分寺病院) ▲蛇子 佑香里 (榊原記念病院) 大川 真央 (武蔵野赤十字病院) 羽田野 愛 (日本医科大学多摩永山病院) 室井 健太郎 (366 リハビリテーション病院)

(ブロック世話人名簿 ◎印は代表世話人、▲印は相談事業運営委員、○は会計)

II. 各事業報告

【定款第1号事業】

1) 医療ソーシャルワークの普及及び向上に寄与する事業

1. 地域巡回医療福祉相談【受託事業】

地域巡回医療福祉相談は、各ブロックの運営委員会を中心に実行委員会を組織し、多くの会員の協力のもとに年7回実施を予定したが、新型コロナウイルスの影響で対面での相談会は1回の開催となった。

日程	開催場所	相談件数	特別企画
1 10月4日(日)	江戸川区医師会館	3	江戸川区神経難病検診

第6ブロックと第7ブロックで、地域巡回医療福祉相談会を電話にて開催したが、東京都より対面以外での相談会は認められないとの指導により、自主事業として実施した。

日程	開催場所	相談件数	特別企画
1 1月23日(土)	福祉財団ビル7階中会議室	0	第6ブロック電話相談会
2 2月20日(土)	福祉財団ビル5階小会議室	0	第7ブロック電話相談会

2. 電話相談（医療と暮らしのほっとライン）【受託事業】

2020年4月より月4回、電話相談を実施した。件数については、下記表中に含まれる。

地域巡回医療福祉相談と電話相談の相談内容と件数

事 項	面接	電話	文書	計
病気から派生した本人家族の社会生活上の問題	1	9	0	10
病気又は治療の障害となっている心理的不安等精神的問題	2	9	0	11
病気又は問題の要因となっている患者の家族関係やその他の対人関係の調整	0	0	0	0
治療費や生活費等の経済的問題に対する各種制度の利用斡旋	0	3	0	3
医療施設や社会福祉施設の利用をめぐる問題	0	7	0	7
看護や療養・生活指導をめぐる問題	0	2	0	2
退院後の社会生活への復帰をめぐる問題	0	1	0	1
その他医療福祉に関する相談	0	5	0	5
合 計	3	36	0	39

3. 公開講座【自主事業】

新型コロナウイルスの状況下、開催の可能性について検討したが、感染拡大などを懸念し2020年度は中止と判断した。

4. 難病検診への参加協力

難病無料医療相談会は東京都から委託を受け、東京都難病相談・支援センターが実施している。当協会では、難病無料医療相談会に毎回2～3名のMSWの派遣に協力し、専門医と面接前の事前面談を担当している。MSWは、医師との面談の前に来所者の相談内容を確認し、20分という限られた医師との面談を有効に使えるように関わった。また、生活に関わる相談の内容には個別に相談に応じた。

2020年度は、当初8回の参加予定であったが、新型コロナウイルスの状況下、下記2回の参加となった。

①日 時：2020年10月25日（日）11：30～17：00

対象疾患：血小板減少性紫斑病

協力SW：高橋澄穂（江戸川区中央健康サポートセンター）

来談者：5名

②日 時：2020年11月15日（日）11：30～17：00

対象疾患：進行性核上性麻痺 大脳皮質基底核変性症

協力SW：井上孝義（信愛病院）、高橋澄穂（江戸川区中央健康サポートセンター）

来談者：18名

5. 地域巡回医療福祉相談活動企画運営委員会【自主事業】

地域巡回医療福祉相談会運営委員と江戸川区、西東京市、葛飾区、豊島区の独自相談会実行委員が、相談会活動の企画や今後の運営等について情報共有及び協議する場として、社会問題対策部と総務部共催で委員会を開催した。

今年度は新型コロナウイルスの拡大防止のため、委員会をオンライン中心で行い、相談会開催に向けて検討を重ねたが、例年行われていた福祉まつり等の中止の影響もあり、相談会を開催することを断念した。

6. 地域医療福祉相談会【自主事業】

江戸川区・葛飾区・豊島区・西東京市の4カ所の地域で開催を予定したが、新型コロナウイルスの影響によりすべての地域で中止とした。

7. 災害支援活動【自主事業】

東日本大震災発生から2021年3月で10年となる。10年を経過した現在も、被災された方々においては、健康問題や生活の場の喪失、孤立化など医療や福祉に絡む様々な問題が生じている。よって、今後も震災支援の継続が必要と考える。

一方で近年、全国各地において震災や台風、噴火など様々な自然災害が頻発している。

新型コロナウイルスによる感染拡大という「見えない災害」の状況の中、今後も、南海トラフや首都直下型地震、風水害、大事故など、大きな災害が起こり得ることを常に意識して

いかなければならない。

2020年度は限られた状況の中、以下の活動を行ってきた。

(1) 支援活動の運営

東日本大震災以降、当協会内に「災害支援対策委員会」を発足させ、定期的に活動の打ち合わせを重ねてきた。2020年度はオンラインにより計2回実施した。

委員会の構成メンバーは、三役、各部理事、活動に賛同する一般会員である。協会内に委員会を設置することにより、2011年以来、継続的な活動を図ることが可能となっている。

(2) 被災者への支援

①2021年2月に発生した福島県沖における地震など、全国各地で頻発した災害時において、日本医療社会福祉協会や被災県MSW協会など、多団体・多機関との情報共有や連携に務めた。

②東京都への直接要望を実施し、「災害支援研修の拡大」、「広域避難者の健康、人権に対する支援の継続、強化」、「広域避難者への相談・心理支援・情報提供の体制を整備・充実」について要望を提出した。

③「子どもの甲状腺検診」(生活協同組合パルシステム東京主催)が2020年11月に開催されたが、新型コロナウイルスの感染拡大を懸念してMSW派遣を断念し、当日は当協会の電話相談のチラシを参加者全員に配布という方法を取った。

(3) 防災・減災、災害時対策

①災害関連情報ストック「みんなで学ぼう！災害制度」を協会内のホームページ内に設け、災害支援に関連する情報の蓄積に務めている。

②災害時の業務継続に備え、郊外のサテライトオフィスとの契約・データの保管を継続している。

③東京都社会福祉協議会主宰「災害福祉広域支援ネットワーク推進委員会」に参画。東京都や各専門職団体と、災害時における福祉支援に関する協議を図っている。2020年10月6日に伝達訓練が開催され、当協会も参加した。

④別冊「つたえる」3号作成。協会ホームページに掲載した。

(4) 会員や関係機関・団体への教育及び広報、協働活動

①災害支援ニュース「つたえる」の発行を行った。

②災害支援研修・ワークショップに関しては、新型コロナウイルスの拡大を懸念して、中止とした。

③教育・啓蒙活動として、第39回日本医療社会事業学会において、「大規模災害における職能団体としての対応と課題～東京都医療社会事業協会の取り組み～」の演題名にて、当協会の活動についての発表と、災害支援をテーマとしたパネルディスカッションに参加予定だったが、新型コロナウイルスの影響で学会自体が中止となった。

以上、各関係機関や他県のMSW協会と交流・連携を深めながら、協会全体の協力体制の強化に務めた。

【定款第2号事業】

2) 会員の専門知識・技術の向上に関する事業

1. 講座【自主事業】

2020年度は2019年度に新型コロナウイルスの影響で開催を延期した講座を、オンライン形式で1回開催した。「SWの基本を振り返る」をテーマに2019年度に開催した第1回は、佐藤俊一先生に「価値と倫理」について講義をしていただき、2020年度開催の第2回の講座は、ALS当事者である土居賢真氏を講師にお招きして、病気の告知、人工呼吸器の選択、生活の質（QOL）の意味など、土居氏の経験と想いを伺った。なお、講座開催準備、当日運営においては帝京平成大学の平岡久仁子先生に多大なるご支援を頂いた。

講義は土居氏の作成した資料をヘルパーの方が読み上げ進行し、途中、土居氏の自宅での生活の様子を紹介していただくとともに、平岡先生が随時解説をして下さった。また、質問には土居氏が文字盤を見る目の動きをヘルパーの方が捉え回答していただいた。一部音声トラブルがあったものの、土居先生のユーモアを交えた率直な言葉とともに、平岡先生からの投げかけにより、MSWの在り方を再考する講座となった。

当日出席者は33名で、受講生からは「講義と実際の生活の様子がみられて、とても内容の濃いものでした」「私たちSWはその人が生きるために何をしたら良いか当事者と一緒に考える必要があると思った」等の感想が寄せられた。

コロナ禍の中、講座の開催方法はオンライン開催が主流となる可能性が高いが、今後も専門性の意識化や知見を深められる講座を提供できるよう企画・運営に取り組んでいきたい。

2. 研修会 ※講師 敬称略

(1) 新人研修【自主事業＋一部受託事業】

2020年度は、当初、通年コース（2時間20回）と集中コース（2時間6回、7時間2回）の2つのコースを設定していた。しかし、新型コロナウイルスの影響が広がり集合研修が困難になったことから、ZOOMを使用したオンライン研修に変更し、通年コースを取りやめ9月から集中コースのみで開催した。受講生は44名での開催となった。

また、2020年度から特別講義の内容と講師を変更した。

オンライン研修は協会として初めての試みであり、PCやWi-Fiの準備、講師との打ち合わせ、受講生のインターネット環境の確認やZOOM接続のテストを行うなど、例年以上に準備を要したが、大きなトラブルはなく終了した。なお、受講状況が確認できるようにするため、受講中は自身のカメラを必ずオンにして受講すること、受講後振り返りシートを提出することで出席を確定するなど、できる限りの対策を行った。

【講師】 田上 明 （東京都医療社会事業協会会長）

樋口 昌彦 （至誠会第二病院）

仲谷 美恵子 （森山脳神経センター病院）

八木 亜紀子 （アアライ株式会社）

山谷 佳子 （聖マリアンナ医科大学産婦人科学）

吉浦 輪 （東洋大学ライフデザイン学部生活支援学科）

藤平 輝明 （東京医科歯科大学病院）

小松 美智子 （武蔵野大学非常勤講師・

女性の暮らしやすさを考えるソーシャルワーク研究会）

(2) グループスーパービジョン【受託事業】

①Aグループ

【講師】 古屋 龍太（日本社会事業大学大学院）

全10回（9月開講 毎月第2火曜日、10月、11月、1月は第2・第4火曜日）を受講生8名、オンライン形式で開催した。初回は「オリエンテーション」、2回目以降は「事例検討」、最終回に「振り返りと総括」を行い、各回の出席者に受講レポートを課した。「事例検討」は、講師が事例を画面上で共有する形式で進めた。講師と出席者からの質問をもとに、事例提供者は事例の詳細な状況とソーシャルワーカーとして見立てや思いを言語化し、これを講師が画面上に板書入力し可視化する方法をとった。後半は出席者が「もし自分だったらどうしたか」を考え言語化した。提供者は、講師、出席者からの質問、発言、励ましを受けての気づきを再度言語化した。最後に講師から、事例の見立て方、ソーシャルワーカーとしての関り方にコメントを付した。

受講生からは「自分がこれまで患者や家族とどのように関わり、関係性を構築してきたのか、どのような影響をもたらしていたのか振り返ることができた」「異なる領域で働く方の事例や意見を伺うことで、日常の業務を行う上での自身の考え方の癖などを感じることができた」「事例の概要は違うが同じように葛藤しているものがあり共感し、考え方や支援の勉強になった」「同職種の方の働くうえでの悩みや思いを聞いて自分1人じゃないという勇気もらった」という意見があり受講の満足度がうかがえる。

またオンライン形式については「参加者の顔や名前が見える形であったため、意見交換を行う上では大きな支障が無かったと感じる」「会場までの移動が無いのが助かる」「業務との両立がしやすい」という利点が挙げられた一方で「他の参加者の方と話すタイミングを作ることが難しいと感じる」「直接会えなかったので残念、もっと話したいことがあった」「パソコンの不具合で何度かトラブルがあった時困った」等の課題も寄せられた。

②Bグループ

【講師】 石井 三智子（日本社会事業大学）

経験年数2～6年目の受講生5名で、毎月第4木曜日を基本として開催した。新型コロナウイルスや台風の影響で初回を10月へ延期し、全8回開催となった。初回は会場にてオリエンテーション、2回目以降は各受講生の事例検討をオンライン形式にて行った。最終回は「ICF機能分類を用いて提出事例をもとに事例個人をエンパワーしていくことの再考」を目的として開催した。事例検討では、受講生が司会を担い、受講生からの意見や質疑応答を繰り返すことで事例を深めていき、提出者が検討したい事に対して振り返りや新たな気づきを得る場となった。また、講師からの助言や参考文献等の資料も活用しながら進められた。事例検討後に、講師が事例提出者と個人スーパービジョンを実施した。

受講生からは「オンライン研修でも工夫次第で同じ職種の横の繋がりを広げられた事は非常に大きな財産となった」「ソーシャルワーカーとして大切にしたいクライアントとの援助関係などGSVを通して丁寧に紐解く事が出来、今後の姿勢や考え方に大きく影響を受けた」等の意見が寄せられ、満足度の高い講座であったとうかがえる。

オンライン形式に関しては「天候や公共交通機関の影響がなく、出席が困難な確率が

少ない」「会場が遠方のため職場からの参加は勤務調整が大変だが、オンライン形式となり調整がしやすかった」等の意見が出された。また、「複数と会話する場面では、発言が重ならないように気を遣う」「その場の雰囲気は掴みづらい」「なるべく小規模グループでの開催が望ましい」等の課題も寄せられた。

(3) 2020年度 未実施研修の振替開催

新型コロナウイルスの影響をうけ、2020年度内に予定の回数を終了できなかった新人研修(通年)・グループスーパービジョンA～C・多問題を抱える家族の理解と支援の講座については、オンライン研修等で振替開催を行ない、終了した。

3. プログラム検討委員会

協会の研修事業の体系、内容などを検討する諮問機関である。2020年度はオンライン研修全体の運営状況や2021度の新人研修の内容について協議を行なった。

- 【委員】伊藤 正子 (法政大学)
井上 歩 (河北リハビリテーション病院)
内田 美沙子 (田無病院)
鎌田 由佳 (所沢第一病院)
佐藤 真弓 (ふれあい相互病院)
田上 明 (東京都清瀬喜望園)
中辻 康博 (豊島区医師会)
原田 剛 (新山手病院)
大宮 謙一 (多摩南部地域病院)

【定款第3号事業】

3) 医療ソーシャルワークの必要な調査研究に関する事業【自主事業】

1. 医療福祉問題研究委員会〔自主事業〕

当委員会は、「社会福祉・保健・医療分野における調査・研究及びソーシャルアクションを行なうこと」を目的に活動を行う。理事会が承認する専門部会である。

(1) ホスピス・緩和ケアにかかわるMSWの集い

2020年度は、協力員がメールやオンラインを用いて、これまで7年間の活動を総括した成果として、現場の実践に還元出来るよう、「MSWのための視点マップ」作りを行い、当協会のホームページに掲載した。

(2) 成育医療等を考える小委員会

会員アンケートの結果から研修会(勉強会)の開催を予定していたが、新型コロナウイルスの流行に伴う活動制限があり実施できなかった。委員が直接集まって会議をすることもままならず、オンラインを利用した開催も議論したが実施できなかった。

委員会はオンライン利用と直接参加の併用で開催したが、非常事態宣言が発令され集まること自体が困難なこともあり、メールを利用して活動についての意見交換を行った。

(3) 身元保証に関する小委員会

身元保証の問題について、現場においてMSWがどのようなことに直面し、困っているのか、現状の把握を行うことからはじめた。新型コロナウイルスの影響を受け、オンラインを利用して2回の会議および事例提供となった。次年度も引き続き各委員の事例の共有を通じて機関や地域毎の現状を明らかにする。

[定款第4号事業]

4) 刊行物の発行に関する事業

1. 会員向けニュースレター「東京MSW」の発行（各号1000部）

会員向けニュースレター「東京MSW」（354号：8月、355号：11月、356号：2月、357号：5月）を発行し、会員相互の情報共有、新しい情報の提供を行うとともに、協会活動を発信する媒体として機能するような内容の充実に努めた。

2. 機関誌『医療ソーシャルワーク』69号の発行（1000部）

協会機関誌である『医療ソーシャルワーク』69号（3月）を発行した。